

パレスチナ人民蜂起は六月九日で七ヵ月目に突入した。そして、パレスチナ人民は緊急アラブ首脳会議で蜂起継続へアラブ総体の意思として全面的な支持を勝ちとった。これは六ヵ月間にわたる蜂起の最大の勝利であり、蜂起を闘う人民への最大の贈り物である。蜂起の発展はいっそ確実なものとなつた。一方、米帝のアラブ反動を取り込んで蜂起を解体しようとする試みはこれによつて完全に破綻した。また、蜂起が野蛮

な暴力によって、静まるだらうといふシオニストの幻想を完全に打ち碎いた。パレスチナ人民の未来は、人民の手のなかに取り戻された。

一 パレスチナ人民蜂起の発展

今月は、国際政治のなかでパレスチナ問題がどのように扱われるかにPLO蜂起民族統一指導部は、「パレスチナの呼びかけ」（アピール六号）、「RPG^①ど石の子供たちの呼びかけ」（アピール一七号）を發

された。ソ米首脳会議の結論が、アラブ首脳会議に影響し、また、米帝の蜂起解体策動に影響を与えるものとしてあつた。当然、石と火炎びんで闘う被占領地パレスチナ人民の闘いもソ米サミットに対する人民の側からうの意思の表示としての意味を持つていた。

号でアラブ諸国に、米帝シユルツ案に反対することを呼びかけ、アラブ反動のシオニストの犯罪と対決しない態度に抗議し、モスラムの最大のお祭りであるアイード・フィト^②ル

緊急アラブ首脳会議と人民蜂起

一九八八年六月一〇日

月刊
中東レポート

第36号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03)291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

目次

緊急アラブ首脳会議と人民蜂起	1
PLO蜂起民族統一指導部アピール（資料①）	8
アルジェ・サミット声明抜粹（資料②）	12
ファドラッラー師インタビュー（資料③）	13
ゆっくりと、日本はイスラエルへの接近を試みている（資料④）	15
中東における日本（資料⑤）	16
日本赤軍声明（資料⑥）	17
重要日誌（1988年5月11日～6月11日）	18

の根拠をパレスチナ人が蜂起を行つてゐることのみにおいている。まさにナチがユダヤ人に対して行つたものと同一のことを行い、また、それをこうした少年にまで植えつけようとしている。

また、モスレムの三大聖地のひとつであるエルサレムのアルアクサ・モスクに対し、リクードの極右シオニストの国會議員が四〇〇人の警官を引きつれ、エルサレムのムフティイ^⑤の抗議を無視し、聖地を冒した。イスラエル議会の内務委員会のメンバーの肩書きでこのような挑発行為を行つてゐる。また、五月二〇日にはアルアクサ・モスクへの金曜礼拝のためにエルサレムに入ろうとしたパレスチナ人を追い返すなどの行動を出でている。

また、シオニストセツラーによるパレスチナ人の殺害も増えてゐる。五月二二日には、パレスチナ人の婦人とその息子がセツラーの火炎びんで車の中で焼き殺されている。その二日前にも西岸でパレスチナ人がセツラーに射殺されている。また、極右シオニスト・グシェムニン^⑥の女のセツラーがパレスチナ女子中学生たちに対し砲撃する事件も起こつてゐる。

また、シオニストは小学校や幼稚園の閉鎖の解除を行うことによって、蜂起が収まっていることを印象づけようとしたが、高校などを再開しないことに見られるように、学生が集まるによつて、蜂起の拠点になるところは避けている。五月二九日に中学校を再開したが、学生たちはストライキを宣言するなど新たな抵抗の闘いが開始されることになつてゐる。

このシオニストの弾圧に対し、パレスチナ人民は、ゼネスト、ボイコットの拡大、投石と火炎びんでの抵抗を続けてゐる。そして、イスラエルによつて指名されていたラマッラアの市長カリーム・ムサの辞任を勝ちとつた。また、残る三人のイスラエルによつて指名された市長に対しても、人民の処罰が与えられている。

また、学校の閉鎖に抗議し、学校への登校する闘いが学生と先生・職員によつて行われていたが、シオニストの閉鎖の解除はこの闘いの成果でもある。また、シオニストは蜂起継続の物質基盤の解体のために国外からの金の持ち込みを禁止している。パレスチナ人民はこれに対しても連帯運動を行い、国外のパレスチナ人に對して、占領地の家族に對する

二 レバノンのシア派の戦闘

食糧、衣類などの家族単位での支援体制をつくっている。

そして、六月三日から行われたシユルツの今年四度目の中東歴訪に対して、パレスチナ人民はゼネストで答えた。パレスチナ人民の蜂起は、シオニストによる蜂起の物質的基盤の破壊に対し、継続のための物質基盤の強化を必要としている。人はすでに、「（シオニストの弾圧によって）失うものは何もない」と明確に決意を語っており、蜂起のいっぽうの強化のために物質的支援の拡大を必要としている。

国際世論の目をレバノンへ向けさせることに、その意図があった。その意図に沿うように南部、ペイルート南部郊外でシーア派民兵組織アマルとヒズボラーの戦闘が起り、ペイルート南郊のシーア派地区でじつに四〇〇人近くが死亡するという大規模な戦闘に拡大した。また、同時にアラファト議長の率いるファタハとアブ・ムサの率いるファタハ反乱派の戦闘がペイルート南部のパレスチナ・キャンプでの戦闘が起つた。

パレスチナ内の矛盾に対しては静観していたシリア軍もシーア派の戦闘の拡大に動かざるをえない状況に置かれた。

同時にこれら戦闘がシリアとパレスチナの和解にひびをいれることになることが政治的には懸念されたことであった。これは六月七日に開催される予定になっていた「蜂起のサミット」に悪影響を与えるおそれがあつた。パレスチナ内部の矛盾については、PFLPなどパレスチナ勢力が戦闘を終結させる努力を行ない蜂起の獲得物の防衛のために努力を行つた。しかし、シーア派の戦闘は止まること知らず、その矛盾はシリアとイラクの関係に影響ができるほどになつた。

をキャンセルし、その第一日目をパレスチナの殉教者の日とすることを呼びかけ、一七号では、国際世論にパレスチナ人民の合法的権利を獲得するための支援を訴え、ソ・米首脳会議に対して、パレスチナの民族的権利の承認ぬきに、中東問題の政治的解決はないことを訴えた。また、「蜂起のサミット」（緊急アラブ首脳会議のこと）に対して、シユルツ案の拒否とPLOのパレスチナ人民の唯一合法の代表としての位置の再確認、あらゆる形態の蜂起への支援を呼びかけていた。

また、蜂起の全面的な市民不服従運動への発展とシオニストのますますエスカレートするテロ、抑圧に対して、イスラエルに対する全面的ボイコットの貫徹、人民委員会とそのもとにある各委員会の発展、また、シオニスト軍と対決する特別部隊の拡大を呼びかけ、また、民族の裏切り者に対する警告を行つた。

シオニストは蜂起が静まると何度も宣言したが、そのテロと暴力的抑圧にもかかわらず、蜂起はいつそう強化されている。五月一七日段階でパレスチナ側の統計⁽³⁾では、三三八人が昨年一二月の蜂起の開始からこの日までにシオニストの手によって殺

されている。そのうち一二五人は、銃撃で殺され、六〇人が毒ガス（催涙弾と偽ってデモ隊に打ち込んでいる）、九人がシオニストの戦車によってひき殺されている。この日の段階での報道機関による死者の数でも、少なくとも一八三人が死んだとされている。それが六月九日には二二二人となつており、その闘いの激しさを物語つている。すなわち、二〇日間に少なくとも三九人が殺されており、一日に二人が少なくとも殺されている。

戦争大臣ラビンは、「暴力は一月と三月の間より、拡大していない」とうそぶいていた。しかし、ラビンの抱えている専門家たちですらこのラビンの発言とは反対のことを報告しており、また、蜂起がより長期に暴力的になつていくことを予測しているのである。まさにこうした発言自身が蜂起に疲れはてたラビンの主観的願望でしかないことを物語つてゐる。

シオニストはデモ隊に発砲し、また、逮捕者を骨が折れるまで殴りつけることに止まらなかつた。ガザでは身分証を切り替えると発表し、ガザのパレスチナ人全員に出頭を命じた。これはシオニストの新たな蜂起

鎮圧の戦術としてあつた。シオニストはこの方法を早い段階で取つていて、蜂起は長く続かなかつただろうと言わせるほど決定的な蜂起鎮圧の方法と考えている。この新しい身分証がどんなものかは、切り替えを行つた人々が体験している。あるパレスチナ人は、この新しい身分証をシオニストのチェック・ポイントで提示する度にシオニスト兵によつて暴行をうけた。これはこのカードに蜂起の参加者であることが記載されていたためである。このほか税金の支払いをボイコットしていることなどが記載されており、それによって、シオニストがパレスチナ人一人一人に対しても系統的な嫌がらせや弾圧が可能となつてゐる。シオニストはすでに、米帝のコンピュータ会社の手で、被占領地人民一人一人に対するデータ・バンクを開発し、それを使って最も徹底した弾圧を可能としている。すなわち、この身分証の切り替えは、このデータ・バンクにリンクさせたものに切り替えることを意味していた。税金の支払いをボイコットしている商人はシオニストの検問で、コンピュータで見つけだされ、その場で彼らの自動車を奪われ、罰金の支払いを強制されている。まさ

に、これはコンピュータを使えば、どのファシストよりも残酷な支配が行えるということを示している。このような身分証の切り替えに人民の怒りは拡大した。ガザのシャティイ、ディル・アル・バラなどのキャンプでは、この策動に対し、徹底した抵抗が行われている。また、電話線を破壊し、コンピュータのオンラインをマヒさせる闘争も行われている。

また、五月九日の蜂起六ヶ月目を期したゼネストで、これまでの商店をむりやり開店させるという戦術から、蜂起民族統一指導部が呼びかけている九時から一二時の開店時間に強制的に閉鎖させるという新たな戦術をとり始めた。

また、逮捕者に対する暴行はさらに増大している。「イスラエル」内の報道では、軍がイスラエルの高校生をこの暴行に参加させている事実^④が暴露されている。それによると手と足を縛られ、目隠しをされたパレスチナ人拘留者に対して、この高校生たちは、素手や警棒、金属の棒で殴りつけ重傷を負わせている。さらにこの高校生たちは、機関銃があればそれで殺していくと平気で公言している。彼らはその行為の正当化

実権の委譲を要求した。それが大統領選が行われる条件といつていい。その直後の東ペイールートの一人、死者を出した車爆弾によるテロは、ジャジャの率いるレバニーズ・フォーシズがシリアの平和維持軍としての位置を低下させようとして実行したものであることは明らかであった。なぜならこの爆弾が仕掛けられたのはキリスト教徒内の親シリア勢力であるホベイカ派の拠点であり、シリアにとつてはなんらメリットのないところであり、レバニーズ・フォーシズにそのメリットがあるからである。今後右翼キリスト教徒のテロは拡大することが予測されている。テロの拡大こそがシリアのレバノンでの位置を低下させることができるからである。レバニーズ・フォーシズは、米帝からの支援を得られていない状況の中で、その延命を英・仏などの米帝以外の帝国主義に求めようとしている。

このレバノンでのこうした動きの焦点はレバノン大統領選にあり、それは米帝・シオニストとの力関係であり、シリアの政治的強化は、シオニスト、米帝の策謀が強化されることを意味している。それはシオニストのレバノンへの大規模侵略の可

ソ連ではシオニストの大規模攻勢に備えた体制をとっている。パレスチナとの関係では、アブ・ジハドの葬儀直後のアサド・アラファト会談以降進展が見られず、シリア側は、レバノン問題に重点を置いたため「蜂起のサミット」以降に持ち越される結果となっていた。

三 ソ米サミットと「蜂起のサミット」

五月二九日ソ米サミットが開かれた。アラブ総体、とりわけ、アラブ反動はこのサミットで中東問題がどのように扱われるかを注視していた。米帝シユルツ案が国際和平会議を取り込みつつも、その基本としてあるシオニストの利益を第一においた者たるにたっており、また、イスラエル自身を説得できない現状にあって、ソ連がどのような態度をとるかが注目されていた。パレスチナ革命についての危惧は、緊張緩和を優先するあまり、ソ連がPLOの位置をあいまいにした妥協を行うのではないいかということであった。そして、それはアラブ反動の望むものであった。その危惧はソ連の原則的立場からすればあたってはいなかつたことが

二二九

「アーティストの魔界」

結果として明確になつた。これは PLO やアラブの進歩的諸国に有利なものとなつた。

ゴルバチョフとレーガンは、中東問題での歩み寄りをしなかつた。ゴルバチョフ書記長は、米帝が国際和平会議を受け入れたことを評価しつつも、第一に、国際和平会議の中身（米帝は実行力をもたない直接的交渉へ至る象徴的なものとしてのみ承認している）、第二に、パレスチナの民族的自決権の問題（独立した民族的国家の建設にまでその権利を承認するのか否か）、第三に、交渉過程への PLO の参加の問題（米帝は PLO をパレスチナ人民の唯一合法の代表であることを承認せず、ショルツ案ではヨルダンとの合同代表団として可能性があるのみであった）についてさらに討議が必要であると述べるにとどめ、合意にはいたっていないことを明らかにした。これらの点は国際和平会議の開催のための譲るところのできない原則であり、ソ連がその原則を堅持したことは米帝の、「中東和平」のための工作の破産を意味する。

サミットの直後の六月三日米国務長官シユルツが今年四回目の中東歴訪を行つた。今回はカイロを拠点に

シユルツの訪問を拒否した。シユルツは米帝の立場に変化のないことを強調し、逆にシユルツ案を受け入れないアラブ、イスラエルを非難した。これはほとんど負け犬の遠吠えに近いものであった。そこでシユルツは新しい考え方を披露した。分離した国家に土地を分割しなくてもイスラエル人とパレスチナ人は主権を分有できると述べ、一〇〇年前の主権に対する考え方を変えよと非難を行つた。この考え方から今回の訪問では、はつきりと独立したパレスチナ国家はありえないという考え方を表明しており、パレスチナ人民の民族的権利を承認しないことを明確にしている。これは明らかに米帝の立場がイスラエルの防衛にしかないことを自ら明らかにしたことを意味する。

まったくこのシユルツの四回目の中東歴訪はアラブのジャーナリストが批判したように「時間の浪費にしかすぎなかつた」。

ソ・米サミットの結果をみたアラブ反動は、これまでの「蜂起のサミット」の開催の隠然とした妨害の態度を変えた。六月一日にサウジが参加の態度を明確にし、これによつて

アマルとそれに対抗するスンニ派民兵および共産党などの左派の連合との戦闘に介入する形で行われ、スンニ派民兵左派民兵が西ベイルートからレバノン南部に追い出された。今回戦闘でシリア軍がどのような態度を取るかが注目されていた。とくに昨年二月の時と同様に、今回の戦闘でもアマルが敗北的状態にあり、シリアがどのような仕方で解決するかが、レバノンの今後の動きを規定するに止まらず、パレスチナとシリアの関係をも規定することになることが予測されていた。

この戦闘はレバノン南部のシーア派住民地区での戦闘から始まった。この対立の根本は南部での対シオニストのゲリラ戦に止まらず、占領下パレスチナ内部にまで戦闘を拡大しようとするヒズボラーとシオニストの報復によつて、打撃をうけることを恐れ、戦闘をレバノン南部にとどめようとするアマルとの矛盾にあり、また、ヒズボラーがシーア派内でのアマルの主導的位置を脅かしていたことによる^⑦。アマルが南部でヒズボ

ラーに攻撃を行い、南部ではアマルが制圧した。これに続いてアマルはペイルート南郊においてもヒズボラの叩き出しを行うことを意図して戦闘が開始されたが、ここでは逆に反撃にあり、形成は逆転した。シリア軍は、五一四日に兵員五〇〇〇人、戦車六〇台をもって、南郊を包囲した、しかし、予測されたいたような突入は行わなかつた。しかし、戦闘は継続した状態にあつたこの間、停戦の努力はレバノンでのヒズボラ指導者とシリア軍責任者の間での話合いだけでなく、シリアとイランとの間での大統領を含む閣僚レベルの話合いまで行われ、停戦の実現に努力を行つていた。そして五月二七日になつて、双方の合意のもとにシリア軍がレバノン軍とともに両民兵の間に割つて入つた。この間実に二週間近くに渡つて、シリア側は解決を急がず、交渉を続けた。この過程でシリアはイランの直接介入になるシリアーイラン共同軍による停戦監視の提案などを拒否し、イランの直接介入になることを避けたシリアにとっては、レバノンでヒズボラの力の拡大とイランの影響力の拡大は好ましいものではなく、レバノンでのシリアの位置を脅かさ

ないものにすることが必要であった。これはパレスチナとの関係と同一の問題としてあった。米帝との関係では米帝がシリアのレバノンでの役割承認の条件がレバノンの安定化、とりわけ、シリア軍管理地区でのヒズボラーを押さえることにあつた。その見返りに米帝は右翼キリスト教徒地区の対シリア強硬派のレバニーズ・フォーシズを押さえることという合意があつたといわれている。その脈絡でみると今回の戦闘の始まりはヒズボラーの一掃を意図しているなことが理解できる。しかし、結果は反対となり、アマルがヒズボラーに対して、敗北的状態に置かれることが成了。昨年二月と同様の解決形態なった。という仕方は、ヒズボラーの後ろにはイランがいるため、採用することは難しい状態にあつた。シリアにとつてイランはアラブの政治に対する影響を堅持しようとした場合、その関係は重要なものとしてある。したがって、この両方の問題を解決しながらアラブ反動との関係において自らの立場を堅持しようとした場合、その最も石油の無償供与など受けておりアラブ反動との関係において自らの立場を堅持しようとした場合、その関係は重要なものとしてある。したがって、この両方の問題を解決しながら

て、その正否は「蜂起のサミット」でのシリアの政治的位置に影響がでることは明らかであった。

結果をみると親シリア勢力としてのアマルは、その指導者であるベリが民兵組織の解散と南部での対イスラエル戦にのみ武装勢力を保持することを宣言したように、完全にヒズボラーに敗北してしまったが、シリアは、シリア軍の平和維持軍としての性格を維持し、ベイルート南郊への軍の展開を行い、イランの直接的関与を排除している。そして、イランとの関係を崩さない事にも成功している。これは米帝との関係でもベイルート南郊にいると言われる人質の生命の安全を保証したことにもなっていた。そして、戦闘で生活困難におかれていたシーア派住民にもその存在を歓迎されることになった。

すなわち、シリアはこの戦闘をとおして、何も失わなかつただけでなく、ベイルート南郊へのシリア軍の展開に成功し、平和維持軍としての位置を高めた結果となつてゐる。これはシリアのアラブでの政治的位置を高めている。シリアは南郊へのシリアル軍の展開をもつて、東ベイルート側にも民兵のレバノン政府軍への

六月二二日から宇野外相が中東を歴訪する予定になつてゐる。今回の歴訪は明確に日本の中東政策の転換を示している。それは宇野が日本の閣僚としては初めてイスラエルを訪問することである。

日本の外務省は盛んに日本の中東政策に変更のないことを強調し、中東での「国際的役割」を果たすために「当事者双方からの話を聞く」と説明している。しかし、今回の中東歴訪はだれもが日本の中東政策の変化を感じ取つてゐる。

それは、「国際的役割」という言葉に示されているように、日帝がそ

四 開始された日帝の中東化

ト・シャミルの率いるリクードの影響力が拡大することになる。これは蜂起をいつそう暴力で解決しようとする傾向が強まるることを意味する。また、イスラエルの政治的孤立が深まり、経済的危機がよりいつそう深刻になることをも意味している。したがってシオニストが頼みにできるのは米帝の物質力のみである。

的な力の拡大をおさえ、米帝の利害を貫徹させるためにも、日帝に「国際的役割」を担わせようとしてきた。同時に米帝は日本に貿易赤字の解消のために日本の防衛費の拡大をはからせたことについての警戒があり、より日本の経済的役割をはたさせるを中心にしている。これは日帝が米帝に軍事的にも米帝の一元的支配体制に脅威を与えさせないようにするためである。それは具体的には「第三世界」の反共反動政権を経済的に援助することとおし

帝の経済的な破綻からの援助の減少に対して、補うものを必要としており、昨年来日本の経済代表団がイスラエルを訪問するなどし、日本政府も大使を通じて経済開発計画への協力を引き受けることを表明してきた。また、日本企業もこれまでアラブの市場を重視するためイスラエルとの経済関係を作つてこなかつたが、三菱自動車がイスラエルでの自動車販売を決めたほか、経済的な関係が形成されていっている。

以上からわかるように日本外務省

の経済的利害を中心においた政策から政治的な役割に軸をおくことを明らかにしたことであった。これまで日帝は石油の供給の確保と、アラブの日本製品の市場としての位置を重視し、イスラエルとの関係を重視せず、アラブ寄りの立場を表明してきた。しかし、日帝の「国際的役割」の強調は自己の経済的な利害を中心にしていないことを意味し、東アジアでその役割を明確にしているように米帝の反共世界戦略を補完する役割として登場することを意味している。

米帝の一元的支配体制が綻び、とりわけ、その経済的破綻は米帝のグローバルな役割を果たすことを困難にしていること。そして、日帝の経済

て革命勢力の拡大を押さえることに
ある。すでに東アジアでは米帝が「マ
リピン共産党対策である経済援助を
行うことに見られるように、また、
竹下が国連軍縮総会でアフガニスタ
ンの復興援助を表明したように、反
帝国主義的勢力の拡大を押さえるこ
とにあら。日帝の側はこの役割を積
極的に果たすことによつて、米帝と
日本の帝国主義間矛盾を緩和し、同時に
日本のグローバルな力をつくりだし
ていくことにある。

これは中東においての意味は、帝
国主義の中東支配の要であるイスラ
エルとの関係強化を意味する。事実
経済的な困難にあるイスラエルは米

宇野のイスラエル訪問の意義は明確であり、日帝が米帝中東支配の破綻を繕う役割を負っていることであり、日帝が米帝とならんアラブ民族解放闘争の直接の敵となつたことを意味している。

日本の外務省もその眞の意図を力バーするために、宇野の中東歴訪に先立つて、アラブ民族主義の進歩的部分を代表し、影響力をもつシリアの外相を招待した。一般にアラブ諸国は日帝の支配を受けたことがなく、日帝を好意的に見る傾向があること、同時にシリアは経済的に困難な状態にあり、それを米帝、アラブ反動に依存せず、独立した立場を維持しようとした場合、一見中立的みえる日本との関係を強めようとするのは理解しうる。日帝にとっては、最左派であるシリアをとりこむことで日本帝の外交展開への敵対者をなくすことにあり、同時にシリアを経済的な援助をとおして従属させようとしている。シリアは日本の経済利害からいえればイスラエル同様、重要ではない。これも政治的な意図が中心にあることは明確である。

1988年7月31日 第36号 月刊 中東レポート

デュカキスはイスラエルの米国大使館をエルサレムに移すこと約束し、エルサレムはシオニストのものであることを承認している。これはアラブにとってはまったく承認しがたいことであり、これは米帝の次期政権には何も期待できないことを示していた。シュルツはデュカキスのこの発言を批判したが、シオニストはレバノン政権を期待せず、すなわち、その後継者であるブッシュ副大統領を支持しないことを明確にしている。今回の歴訪時のシュルツの発言はパレスチナ独立国家はありえないことを明言することでシオニスト・ロビーにシュルツ自身が明確に力をつかっていることを示していた。また、国防長官カルーチはシオニスト

諸国、ヨルダンなどの参加が危ぶまれていたし、ヨルダンも被占領地が行いはじめていた。また、被占領地内部でもヨルダン派のパレスチナ人をイスラエル「民政」に協力させ、蜂起民族統一指導部の辞任要求に対して拒否の態度を取らせていたし、五月末にはラビンとヨルダン派の会談がもたれるなど、蜂起の人民に囲まれて敵対していた。

今回、ソ米サミットの結果は、アラブ反動の、パレスチナ蜂起の継続への支援の態度を決定的にした。また、「蜂起のサミット」のなかでセイイン国王もまた、ヨルダンが被占領地への責任をおつていないこと―すなわち、被占領地に対する権利の

アはイスラエルに平和的解決を強制するための「戦略的均衡」を作りだすために蜂起に財政的援助をするべきと主張したと言われている。討議の具体的な内容については不明であるが結果を見ると基本的PLOの要求が受け入れられている。

最終声明によれば、第一に、実効力をもつた国連のもとでの国際中東和平会議を呼びかけた。第二に、国際会議にPLOがパレスチナ人民の唯一合法の代表として他の参加者と対等・平等の立場で参加しなければならないこと。第三に、首脳会議はパレスチナ人民の民族的目的の達成までPLOの指導下のレジスタンスと蜂起の継続の保証をするためあらゆる形態のすべての必要な援助をあ

ているにせよ、この声明はP.L.O.の政治的勝利としてある。また、同時にサミットで行われた個別会談では、シリアのアサド大統領が、アラブファティフ議長、南イエメンのアッタス大統領、リビアの指導者カダフィ大佐、開催国アルジェリアのベン・ジャデイド大統領などと会談したことは注目されるべきである。これらの一連の会談は旧強固対決戦線の復活を思わせるものがあり、再びアラブ民族主義の進歩的部分のイニシアチブが強化されることが予測される。

これは、米帝の中東政策の破綻である。シオニストにとつても再びアラブと対決しなければならない位置に置かれ、アラブを分断し、個別交渉によって「和平」を実現するの

サウジにつき従っているGCCに集しているガルフの反動諸国の参加も決定的になった。これは米帝レーガン政権のもとでは中東問題の政治的な解決はないことが明確であること、また、次期政権は、レーガントリオニストの立場に立つ民主党のデュカキス候補がシオニスト・ロビーの支援のもとに大統領に選ばれる可能性が高まつたこと、これらの要素は米帝の和平案による

への軍事援助の強化を確認している。アラブ反動にとって、「蜂起のサミット」は再びアラブ政治において左派イニシアチブを承認することになり、昨年のアンマン・サミットでの反動派の勝利を掘り崩すものになることは明確であった。そのため二月以来のPLOとアルジェリアの緊急会議の開催の要求をさまざまな形で口をつけて開催を囁かれていた。六月七日に首脳会議の開催

放棄を宣言せざるをえなかつた。かつて、米帝をイスラエルの防衛しか者えていないと非難せざるをえなかつた。

「蜂起のサミット」はイラク、オマーン、ソマリアをのぞくアラブ・リーグの全首脳が出席することになつた。この会談では、ヨルダンは蜂起がアラブ全体の戦略に統合されること、また、国際的に受け入れることのできる政治行動をとおしてすす

らゆる方法で提供することを確認した。第四に、米帝のイスラエルを支持し、パレスチナに敵対している偏向した政策を非難した。

また、同時にアンマン・サミットでのガルフ戦争への立場を再確認し、イランのテロを非難し、もう一方で米帝に対するリビアの立場を支持し、一九八六年の米帝のリビア爆撃を非難した。これらアラブ民族主義のバランスをとつたものとしてある。

すでに前章であきらかにしたよう
に米帝の中東政策が破綻した現在、
帝がそれに代わって役割を果たす
ことは帝国主義にとって重要な意味
を持っている。

五 情勢の展望

パレスチナ人民蜂起はアラブ民族
主義からの蜂起継続への支援を勝ち
とることができたし、また、パレス
チナ人民とその唯一合法の代表であ
るPLOを排除してアラブとイスラ
エルの「和平」を進めようとする流
れを阻止した。これはパレスチナ人
民自身の手にその未来を取り戻した
ことであると同時にパレスチナ人民
の闘い方いかんに、その未来が託さ
れたことを意味している。

敵シオニストは、国際的な孤立化
にもかかわらず、いつそう暴力によ
る蜂起解体策動を強めるだろう。し
かも、国内的には強硬な立場が支持
されている現状があり、米帝との関
係においてもレーガン政権が終われ
ば、シオニストの思いのままに動く
デュカキスが大統領になる可能性が
高く、国際的な孤立化のなかでも延
命できる条件がある。そして、日帝
の動きもまたシオニストの立場を強
めることになるだろう。

民族統一指導部は、敵に対しても税
金を支払わないことに全面的に従う
ことの重要性を確認する。

二、民族統一指導部は、「土地の日
の呼びかけ」(一三号)の家内農業、
農業共同の方針に従った農業、人民、
都市委員会での人民の役割を賞賛す
る。

三、民族統一指導部は、人民大衆に
ラマダン(断食月)の消費を減らす
ことを呼びかけ、シオニストの商品
ボイコットすることを確認する。

四、民族統一指導部は、労働者に、
一般に「イスラエル」内での労働、
とりわけ、セツルメントでの労働を
ボイコットすることを呼びかける。

五、民族統一指導部は、すべての地
域の人民への支援を迅速に行えるよ
うに全保健委員会の仕事の拡大、救
急医療の訓練の普及を呼びかける。
また、医師に対して治療費の引き下
げを呼びかける。

六、PLOの執行委員会の辞職した
警官、税務署員、セツルメントの労
働者をボイコットした労働者を支援せ
よという決定に従い、人民委員会が
これらの人々をよく援助することを

呼びかける。

七、民族統一指導部は、占領下のゴ
ラン高原の人民大衆に敬意を表し、
我々が同一の闘争を闘っていること
を確認する。シオニスト・イスラエ
ル内のすべてのパレスチナ大衆と蜂
起への支援を強めているすべてのア
ラブ大衆に敬意を表する。占領に對
しての闘いをひとつにしよう。

八、蜂起民族統一指導部は、ガザの
「民政」で働く管理職の人々に即座
にその地位から辞任することを呼び
かける。

九、我々は赤十字国際委員会、UN
RWAが封鎖、外出禁止令下にある
都市、村、難民キャンプへの食糧、
医療品の供給の責任を果たすことの
必要性を確認する。

民族統一指導部は以下のことを行
ひかける。

(一) 金曜日と日曜日をアブ・ジハド
とパレスチナ人の殉教者への祈りの
日とせよ。大規模なデモと象徴的葬
儀を行い、パレスチナの旗と黒い旗
を掲げよ。

(二) 四月二三日をアブ・ジハド暗殺

の七日目を期して、すべての委員会
の参加による怒りの日とせよ。

(三) 四月二八日を追放された人々の
日と宣言せよ。全分野でのゼネスト
を行い、追放された人々に連帯し、
野蛮な追放政策を非難せよ。

(四) 残りのすべての日を怒りの日と
し、幹部と人民の殺害、外出禁止令
に対する怒りの日であるという決定
を考査し、より高度な活動を作り出
すことを呼びかける。

(五) 蜂起民族統一指導部は、すべて
の人民委員会に、四月二二日から二
九日をシオニスト占領軍とセツラ
ー蜂起をエスカレートさせよ。

民族統一指導部は、「イスラエル」
の社会、経済構造に影響を与えてい
るセツルメントでの労働と商品のボ
イコットを確認する。

民族統一指導部は、「イスラエル」
の社会、経済構造に影響を与えてい
るセツルメントでの労働と商品のボ
イコットを確認する。

二、民族統一指導部は、抵抗してい
るガザのキャンプの人民大衆、とり
わけ、身分証を奪おうとするシオニ
ストの企みを打ち砕くために抵抗を
行っているアルーシャテイ・キャン
プ、ディル・アルリバラ村の人民大
衆を高く評価し、敬意を表する。

三、民族統一指導部は、赤十字国際
委員会、UNRWAに、蜂起継続の
機会を与えるためにガザのすべての
キャンプにあらたな供給を行うこと
を要求する。

四、民族統一指導部は、すべての人
民委員会に、警察、地方行政府、村
落委員会で働くものの、とりわけ、ア
ジール、タウイル、ハリル・モウサ、
ジャミル・サブリ・ハラフに対して、
最大の打撃を与えることを呼びかけ
る。これまで彼らに対して行ってき
たことはたんなる警告にすぎなかつ
てことを確認する。

これは被占領地内でのパレスチナ
人民とシオニストの対決が激化して
いくことを意味している。この闘争
に勝利していくためには、いつそ
うの蜂起への国際的支援が要求され
おり、とりわけ、米帝に対してもパレ
スチナ人民の正当な民族的権利とP
LOの唯一合法のパレスチナ人民の
代表としての位置を認めさせる闘い
を強める必要がある。それはソ連を
始めとする反帝勢力の国際的な共
同始めとしての位置を認めさせる闘い
ぬきはない。

また、被占領地の闘いを全面的な
市民不服従運動として発展させ、シ
オニストの支配を徹底して破綻させ、
人民委員会を人民の権力機関として
確立させていかなければならない。

そして、蜂起の継続のための物質的
基盤を強めていかなければならぬ。
南部レバノンでのレジスタンスを蜂
起への支援としてシオニスト軍への
打撃を与えるゲリラ闘争として強め
ていくことである。南部レバノンの
闘いは、パレスチナ、レバノン、シ
リアの同盟の強化として勝ちとつて
いく必要がある。

また、日本人民の蜂起への支援の
闘いは日帝の「国際化」との対決と
して問われている。

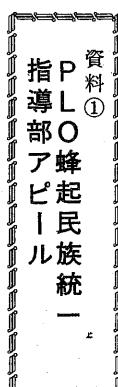
*① パレスチナゲリラが使用して
いる携帯式対戦車ロケットの名称||
RPG7。これは在外のパレスチナ
革命の象徴として使われている。

*② ラマダン(断食月)明けのお
祭り。日本の正月のような年中で最
大のお祭りである。三日間続く。今
年は六月一七日から行われた。

*③ 一般報道との死者数の相違は
始めとする反帝勢力の国際的な共
同を強める必要がある。それはソ連を
始めとしての位置を認めさせる闘い
ぬきはない。

もシーア派内では拡大していた。

と呼ばれていた。それと政治的には、
アマルの「キャンプ戦争」に反対し、
対シオニストへのゲリラ闘争を軸に
おいているため、その政治的影響力
がその後にいると言われ、治安計
画を推進する立場にあるアマルと対
立することになっていた。



*④ イスラエル労働党ブルックの
マバム党が調査、報告している。
*⑤ ムフティーイスラムの僧侶の
地位で地区のキリスト教の司祭のよ
うなもの。

*⑥ GUSH EMUNIM 「信仰のプロック」占領地でのセツルメントの建設とパレスチナ人の追い出しを図っている極右シオニスト。
*⑦ この数年間、アマルを抜けて、ヒズボラーに行くものが増えており、アマルは組織的な危機にあった。この根拠としては、ヒズボラーの物質

命に対する新たな虐殺の方法——ア
ブ・ジハドの暗殺——と被占領地内
での毎日の犯罪行為などの内外での
虐殺行為にもかかわらず、パレスチ
ナ人民はすべての力とあらゆる方法
によって、全面的市民不服従運動の
強固な基盤をつくるために英雄的蜂
起を継続している。

◆アピール一四号

「殉教者ハリール・アルワジル
(アブ・ジハド)の呼びかけ」

一、シオニストによるパレスチナ革
命に対する新たな虐殺の方法——ア
ブ・ジハドの暗殺——と被占領地内
での毎日の犯罪行為などの内外での
虐殺行為にもかかわらず、パレスチ
ナ人民はすべての力とあらゆる方法
によって、全面的市民不服従運動の
強固な基盤をつくるために英雄的蜂
起を継続している。

こと、平和への努力、これを賞賛する。本会議は、イランが、イラクのアラブ領土を占領し、戦争を続け、アラブ、国連レベルの和平へのイニシアチブに反応せず、国連の諸決議に反応せず、国連安理会決議五九八を拒否していることにつき、イランへの弾劾を再び明らかにする。

一本会議は、不可分の全体として、文字通り、そしてその精神にそって、決議五九八を実行するよう、国際社会に呼びかける。

一本会議は、イラクとシャラムジェーを解放したイラクに対し、名誉と誇りをもつて、賛賛を送る。そして、(アラブの)民族的責任を果たすといふことにおき、アラブの民族の完全、アラブの領土、主権を守りぬくという決意の確認において、イラクがイランに占領された残りの領土を解消することに対し、イラクへの完全な連帯を再確認する。

一本会議は、イランーイラク戦継続から生ずる脅威を検討した。それは、その地域のある国々の、とくに、クウェートとサウジアラビアの安全と安定に影響を与えた始めたということである。本会議は、アンマンでの緊急サミットで行つた諸決定を再確認し、アラビア湾の国々が外部からの侵

略に對決している闘いに、アラブ連盟諸国がそれらの国々と共にあるという決意を表明した。

一本会議は、アラビア湾諸国に対し、イランが行つているあらゆる形態のテロリズムをも弾劾する。それは、アラブの数カ国、とくに、クウェートとサウジアラビアの国内安全を左右する暴力行為や、サボタージュに出ていることをさす。

一本会議は、アラブの民族的安全は、不可分の単位としてあり、どのアラブ連盟加盟国に対する侵略も、全アラブ諸国への侵略とみなす。

一本会議は、サウジアラビアがメカへの巡礼組織化においてとつた措置に連帯と支持を表明する。そして、巡礼地である聖なる場所、巡礼者の安全と保安、サウジアラビアの主権の安全、これらを尊重する必要性へ

の訴えを再確認する。

リビア

一本会議は、リビア、アラブ、ジャマヒリアに対する米の侵略を弾劾した。そして、リビアが、自らの安全に対する脅威と対決していくことについて、事前に計画されたものだと考えますか?

答・表面上、レバノンの他の戦争と同じように始まったようにみえます。ある党が他の党へのおとし前をつけ後に起こっています。この戦争は、アマル対ヒズボラ衝突の数週間のアマル対ヒズボラ衝突の数週間か? もしそうだとしたら、なぜだ

と考えますか?

答・表面的には、モスルの南部で争うべきではないと判断したがゆえなのです。南部での戦闘は、イスラエルの占領に対するものであるべきなのです。だから、全方面が、モスルの占領に対するものであるべきなのです。だから、モスルの占領に対するものであるべきなのです。伊斯兰運動はむずかしい存在、抹殺が困難なものになつてゐるということを証明しました。(南郊)

問題は、まだ完了していないある計画の一部であると信じています。

問・その計画の背後にあるのは?

答・レバノンの異常な状況に對処するという大きなかつ重要な目的を持つひとつの努力の排除を必要とさせて名譽ある、公正かつ永続的な解決を与える方法として出された国連和平国際会議の参加者は、国連安理会常任理事国五カ国、全紛争関係国であり、PLOは、パレスチナ人民の唯一合法の代表として、他の参加するための準備として被占領地を暫

(二)五月二五日はアブ・ジハドの四〇日忌である。ゼネストを行い、闘争をエスカレートさせ、象徴的葬儀を行うことを大衆に呼びかける。すべての民族的人士にこのアブ・ジハドとすべての殉教者のための活動に参加することを呼びかける。

(三)六月一日は国際的な子供の日である。子供たちのデモでその日を祝うこと。殉教者、拘留者、追放された人々の子供たちに贈り物すること。

(四)六月二日から四日をシユルツ訪問への抗議と八二年レバノン侵略、六七年アラブ諸国の敗北を期して、人々の民衆の参加を必要としている。

(五)残りの日は人民教育システムの強化、人民委員会、特別委員会、家族支援をより多く作りだす日である。

一九八八年五月二二日

P L O蜂起民族統一指導部

一本会議は、アラブ・パレスチナ人の蜂起が、パレスチナ革命の不可分の一部とみなし、賞賛する。この蜂起は、五〇年以上にわたつて続いた闘争の一環をなしている。

一本会議は、イスラエルの占領に抵抗していくことでパレスチナ人が示している英雄的な行為、自らの被占領地を解放し、帰還、自決、自らの民族の地に、唯一、合法の代表たるパレスチナ解放機構の指導下に独立国家を建設する権利行使するという決意、これらに対し、名譽と誇りをもつて、賞賛する。

一防衛能力を強め、アラブの被占領地を解放し、奪取されたアラブの権利を回復することが可能となるよう、本会議は、敵イスラエルと対決している国に對しての支援責任を再び確認する。

アラブの全被占領地からイスラエルを即時・完全撤退させ、市民を防衛し、パレスチナ人民が何人も奪うことのできない民族的権利を保障することである。その中東和平国際会議の参加者は、国連安理会常任理事国五カ国、全紛争関係国であり、PLOは、パレスチナ人民の唯一合法の代表として、他の参加するための準備として被占領地を暫

定的な国連監督下におくよう国連安全保障理事会に對して、本会議は呼びかけた。

蜂起——中東

資料② アルジエ・サミット 声明抜粋

一本会議は、アラブ・パレスチナ人の蜂起が、パレスチナ革命の不可分の一部とみなし、賞賛する。この蜂起は、五〇年以上にわたつて続いた闘争の一環をなしている。

一本会議は、アラブ・パミットが承認してきた諸原則、とくに、一九八二年のフェーズ・サミットの決定が、アラブイスラエル紛争解決の土台であることを、再び確認する。アラブイスラエル紛争の中心は、パレスチナ問題なのである。そして、国連の監督下、国際的合法性と国連諸決議にのつとた中東和平国際会議開催への支持を、再び明らかにする。

アラブの全被占領地からイスラエルを即時・完全撤退させ、市民を防衛し、パレスチナ人民が何人も奪うことは、敵シオニストに對決する。それを採択した決議を再確認する。それは、この戦争に對するアラブの立派に、過度な効果を及ぼすのである。

本会議は、アンマンでの緊急サミットが採択した決議を再確認する。それが、この戦争に對するアラブの立派の過程でどういう情況にさらされ、その戦争が続くことによって、敵シオニストに對決する。それは、この戦争に對するアラブの立派からその戦争が続くことによつて、イスラエルの立場に對応していな

いと考へる。

一本会議は、アラブ・パミットが承認してきた諸原則、とくに、一九八二年のフェーズ・サミットの決定が、アラブイスラエル紛争解決の土台であることを、再び確認する。アラブイスラエル紛争の中心は、パレスチナ問題なのである。そして、国連の監督下、国際的合法性と国連諸決議にのつとた中東和平国際会議開催への支持を、再び明らかにする。

アラブの全被占領地からイスラエルを即時・完全撤退させ、市民を防衛し、パレスチナ人民が何人も奪うことは、敵シオニストに對決する。それを採択した決議を再確認する。それは、この戦争に對するアラブの立派に、過度な効果を及ぼすのである。

本会議は、アンマンでの緊急サミットが採択した決議を再確認する。それが、この戦争に對するアラブの立派の過程でどういう情況にさらされ、その戦争が続くことによって、敵シオニストに對決する。それは、この戦争に對するアラブの立派からその戦争が続くことによつて、イスラエルの立場に對応していな

いと考へる。

ガルフ戦争

一本会議は、イランーイラク戦争問題と、イランの頑固さ、継戦への固執からその戦争が続くことによつて、生ずる危険性につき、重大な関心をもつて検討した。そして、戦争が続いているアラブの資源とエネルギー動員に、過度な効果を及ぼすのである。

本会議は、アラブ諸国がイランによって脅威、おどしをうけ、内政干渉されている、そして、(イラン)の侵略されること、パレスチナ人民の何人も奪うことのできない民族的権利を保護することである。その中東和平国際会議の参加者は、国連安理会常任理事国五カ国、全紛争関係国であり、PLOは、パレスチナ人民の唯一合法の代表として、他の参加するための準備として被占領地を暫

答・内戦が始まると、シーア派共同体は、レバノンで無視され、承認されていませんでした。レバノンの決定において、シーア派は参加者としての地位を持つていいなかつたのです。しかし、レバノン戦争以降は、レバノン情勢におけるひとつの大好きな勢力であることを証明しました。現在、シーア派共同体の意向を無視して、レバノンの新しい方式を作るわけにはいかないのです。

問・ヒズボラーの第一の戦略目標は何だとお考えですか？

答・基本的目標は、世界帝国主義、イスラエルによる占領、内部の不公正と闘い、現在の情況に広範な影響力を与える知的・政治的計画としてイスラムを提案していくことです。

LOは、エルサレムを現実に解放するだろうとのことです。この点、どうお考えですか？

答・自ら信じた大義を前進させたいと思うとき、あなた自身がそれに成功するかどうかは、必要ではあります。国家としてのイスラエルの存在が、中東におけるイスラムの存在に危険を与えていたと信じているのです。ですから、エルサレム解放へむけ闘うどんな集団も、エルサレム解放がパレスチナ解放の方式ですがこの危険に対処するという我々の目的を達成することになります。そういうものとして、我々は、パレスチナの聖戦の戦士、そして他の人々との目的のために共同する準備があります。

およびアラブ三ヵ国訪問は、経済力にみあつた役割を多くの国際的問題に活発に取り組んでいくひとつの証拠として、東京ではうけとめられてゐる。しかし、イスラエル政府の役人は、より平等な中東政策をとり出した徵候として、歓迎している。

石油需要の三分の一をアラブ国から輸入している日本は、イスラエルとよりもアラブ世界にずっと近かつたし、日本の大企業はイスラエルとの取引きを拒否してきた。米下院の議員の中には、日米関係では自由貿易を要求しながら、イスラエルに対しては、アラブ・ボイコット尊重をしてきた点を批判する者がある。

しかし、宇野の訪問が示すごとく、物事が変化しつつある。一九八五年

昨年、イスラエルでの「日本週間」を東京が主催した。

「非常に興味深い変化がおこりつつある」と、東京のイスラエル役人は言っている。「国際舞台で、日本が成熟してきたという徴候である。日本は、少なくとも、すべての側からの意見を聞かねばならない」という結論に達したのだ」。

外務省スポーツマンの松田ヨシフミや、他の役人は、宇野氏の訪問を同じような主旨で説明する。首相竹下登の世界平和維持により活発になろうとする決意の表明が、エルサレムとの関係作りであるとする。田氏は、「我々は、両方との対話を必要としている。どちらか片方ではなく、両方との」と語る。

エルへの接近を試みていく
ヘルド・トリビューン紙
一九八八年五月三日

には、日本—イスラエル貿易はたった四億ドルであつたものが、今年は一二億ドルに達するとみこまれてゐる。それでも、アラブ諸国との取引が高に比べれば、たつた一二分の一に

問・南部　ヘイルート南支での衝突
とあった後では、アマルヒズボラ
との関係は、元へもどれない点まで
来たと考えますが？

答・対話再開の合理的な条件ができ
たら、将来的には、良好なあり方で
関係が修復されるだろうと信じてい
ます。レバノン情勢で、次の政治条
件と変化が、双方を和解へむけてい
くだろうと考えます。

問・七五年以降、シーア派が獲得し
たものを、どう評価されますか？

答・内戦が始まる前は、シーア派共
同体は、レバノンで無視され、承認
されていませんでした。レバノンの
決定において、シーア派は参加者と
しての地位を持つていなかつたので
す。しかし、レバノン戦争以降は、
レバノン情勢におけるひとつの大き
な勢力であることを証明しました。
現在、シーア派共同体の意向を無視
して、レバノンの新しい方式を作る
わけにはいかないのです。

問・ヒズボラーの第一の戦略目標は
何だとお考えですか？

答・基本的目標は、世界帝国主義、
イスラエルによる占領、内部の不公正
と闘い、現在の情況に広範な影響力
を与える知的・政治的計画として
イスラムを提案していくことです。

問・多くのシェア派は孤立していますが、これは悪いことですか？
答・孤立しているとは考えません。レバノンで、広い支持をうけていると思います。

問・多くのインテリがよく言っていますが、宗教的戦士には、大義のために死ぬことが大切であって、勝利することは必ずしもそうではないとか。ヒズボラーは、エルサレム解放のために死に、しかし、非宗教的PLOは、エルサレムを現実に解放するだろうとのことです。この点、どうお考えですか？

答・自ら信じた大義を前進させたいと思うとき、あなた自身がそれに成功するかどうかは、必要ではありません。国家としてのイスラエルの存在が、中東におけるイスラムの存在に危険を与えていたと信じているのです。ですから、エルサレム解放へむけ闘うどんな集団も、エルサレム解放がパレスチナ解放の方式ですが、この危険に対処するという我々の目的を達成することになります。そういうものとして、我々は、パレスチナの聖戦の戦士、そして他の人々とこの目的のために共同する準備があります。

ゆつくりと、日本はイスラエルへの接近を試みている
　ヘラルド・トリビューン紙
一九八八年五月三一日

歴史的に疎遠だった日本の対イスラエル関係が、歴代初のイスラエル訪問日本閣僚として、宇野宗助の来月のイスラエル訪問を控え、暫時のなウォーム・アップ段階に入っている。

宇野氏の六月下旬のイスラエル、およびアラブ三ヵ国訪問は、経済力にみあつた役割を多くの国際的問題に活発に取り組んでいくひとつの証拠として、東京ではうけとめられている。しかし、イスラエル政府の役人は、より平等な中東政策をとり出した徵候として、歓迎している。

石油需要の三分の一をアラブ国から輸入している日本は、イスラエルとよりもアラブ世界にずっと近かつたし、日本の大企業はイスラエルとの取引きを拒否してきた。米下院の議員の中には、日米関係では自由貿易を要求しながら、イスラエルに対しては、アラブ・ボイコット尊重をしてきた点を批判する者がある。

しかし、宇野の訪問が示すごとく物事が変化しつつある。一九八五年

た四億ドルであつたものが、今年は一二億ドルに達するとみこまれている。それでも、アラブ諸国との取引高に比べれば、たった一二分の一にしかならない。

三菱自動車は、対イスラエル輸出を今年始めたが、日本の大手自動車業界の皮切りとなつた。イスラエルの役人によれば、三菱の車は「あつらの間に売れてる」というで貿易代表団の訪問が双方になされ昨年、イスラエルでの「日本週間」を東京が主催した。

「非常に興味深い変化がおこりつた」と、東京のイスラエル役人は言つてゐる。「国際舞台で、日本が成熟してきたという徴候である。日本は、少なくとも、すべての側から意見を聞かねばならない」と結論に達したのだ。

外務省スポーツマンの松田ヨシフミや、他の役人は、宇野氏の訪問を同じような主旨で説明する。首相竹下登の世界平和維持により活発になろうとする決意の表明が、エルサレムとの関係作りであるとする。田氏は、「我々は、両方との対話を必要としている。どちらか片方ではなく、両方との」と語る。

問…南郊をめぐる戦争は、レバノンにおいてのシリア－イラン間の権力闘争だと言われています。その意図に賛成ですか？

答…その質問は、まったく正確でないと思いますよ。イラン－シリア関係を規定しているいくつかの性格と、いうものがあり、そこから、両者間での相違の幅が出ているのは知っています。しかし、現在、両国は紛争の関係にはさせません。むしろ、多くの共通の問題に対決すべく、協力をしています。

問…このペイルート南郊戦争の政治的結果は何なのでしょう？ レバノン問題において、ヒズボラーは、無視できない勢力としての地位をどの程度獲得してきたでしょうか？

答…政治的結果を論じるには、時期尚早です。なぜなら、この問題について正確かつ現実的な評価を与えるのに足るような最終的結果に諸問題が到達していないからです。しかし、この戦争がもたらした最初の結果はモスレム（原理派）が誰のための犠牲の羊にはならない、レバノン政治

・ 情況の中で誰の言いなりにもならぬいで存在する力を有しているという印象を与えたということです。

問・南郊へのシリア軍の介入で、ヒズボラーの政治・軍事プレゼンスがこれで終了させられてしまうと考えますか？

答・シリアの兄弟たちは、そういう意図を持っているとは話していません。現存の政治条件からみて、そういうことが生じるだらうとも思いません。

問・南郊にシリア軍が配備されても南郊における政治・軍事プレゼンスをヒズボラーが堅持するとおっしゃるのですか？

答・ベカー（レバノン東部）で、ヒズボラーの軍事プレゼンスを維持する枠組の中でシリアとの共存を作り西ベイルートではヒズボラーのプレゼンスを維持しつつシリアとの共存を計るというふうにやってきてるので、（南郊で）問題になるとは思いません。

問・南郊の戦闘をみたとき、シーアを代表するのは誰だとお考えですか？

答・シーアは、ひとつの集団が代表したということが一度もありません。シーアは、シーアをとりまく政治条件の中でも生存しています。シーアの

歴史においては、政治判断、(宗教的法、そして革命への入口が開放されていますから、絶対的なやり方でシリアに君臨することは、誰にもできないのです。

問・シーアは、自らで決定していく自由を欠くという非難をする人がおられます。ヒズボラは、イランの支援をうけた組織であり、アマルはシリアルの後盾をうけているとか。

答・そういうふうには考えません。多くの決定を下すにあたり、あれこれの党が行使する自由の方法と、いうものがあります。

問・ヒズボラの急進的なスローガンの結果から、キリスト教徒のレバニーズ・フォーシズ、また、レバノン問題の平和的解決を拒否する全勢力と同じ波長だと非難されていますが、この点は?

答・モスレム(原理派)とレバニーズ・フォーシズの間に何か共通するものがあると論じることはできないと思いますが、両者は一八〇度正反対から対峙しています。

問・レバノン南部、ベイ南郊にイスラム共和国を樹立しようとしていること、ヒズボラーは非難されていますが、この非難は、妥当ですか?

答・その非難を全面否定することが

できます。ベカー、南部、南郊に
スラム共和国を樹立するというよ
な計画はいっさいありませんから、
問・近い将来でもですか？
答・現在も、そして近い将来も、
りません。(原理派)モスレムは、
治理論を備えたすべての者を包摂
するシステムとして、イスラムを提案
しています。モスレムは、人々に帰
を呼びかけはしますが、力不足で
要はしません。モスレムは、「我々
我々なりのやり方で、イスラムを
案している。マルクス主義者がマ
ルクス主義者のやり方でマルクス主
義を提案しているように」と語ります。
イスラムは、たんなる礼の形式
はありません。イスラムは、人々
ためを考えるのです。原理派は、
的・政治的方法により、そして対
を土台にした呼びかけにより、自
の目的を達成しようとしています。
もし、人々がその呼びかけをうけ
れるなら、人々にうけ入れられた
くの考え方と同じように、イスラムが
制が実現するでしょう。しかし、
人がイスラムの概念をうけ入れな
のなら、レバノンの政治的自由の安
全をうけつつ、自らの信念を主張
るために、レバノンに存在してい
でしょう。

ン・イテ・ク両国と日本は語している。だから、イスラエル、パレスチナ人双方に対しても話せるだろう。宇野氏は、ヨルダン訪問時、ペレスチナ人とも会う計画でいる。ヤセル・アラファト氏は、東京を訪問したことのある。これらは、何ら目新しいことではない。宇野氏の前任者安倍晋太郎氏は、イラン＝イラク戦終結はまつたく援助もせずに、テヘランとバグダッド両方を訪問したものだ。中東に対する日本の関心を示す若干の新しい徵候が出ていた。ガルフを公海にしておくために、欧米援助へむけ、軍艦派遣を検討した。しかし、非戦憲法からみたら、航行用の電子工業器械を送ることしかできないとの決定に到った。日本は、金に加えて、アフガニスタンからのソ連の撤退を監視する平和維持軍に実際に人間を一人――一人である――送っている。これまで、人の派遣はやつたことがなかった。

日本元宣声時

外務省の二月一日より、大使館に配備した。

日本は、その競争の中には日本にとっての機会があると感じている。外部からみたら、そのようなねじ曲った概念にはびっくりさせられるが、日本は外交政策を展開するにあたり、本気でそう考へてゐるのである。宇野氏のイスラエル訪問を実現させた森田良平氏は、去年、外務省の最高官僚の地位についたが、さつそく、外務省のエリートを中東一帯の大天使館に配備した。

資料(6)

日本赤軍声明

日帝外相宇野の「イスラエル」公式訪問を糾弾する

一、我々日本赤軍は日本帝国主義の外相宇野のシオニストとの関係強化をめざした今回の訪問を非難する。

日本政府はアラブ諸国に対して日本の伝統的な中東政策に変更はないと説明している。これはアラブ諸国の目をくらませるためのごまかしである。今回の中東歴訪の真の目的が「イスラエル」との関係強化にあることは明確である。これはパレスチナ人民の蜂起に敵対し、窮地にあるシオニストに手を差し出すものであ

二　日帝は中東での「国際的役割」を果たすために、一方の当事者だけではなく、「当事者双方から事情をきく必要がある」と説明している。この日帝の「国際的役割」とはすでに世界各地での明確になつてゐるよう米帝が提唱した「マーシャル・プラン」に積極的に荷担し、フィリピン人民の民族的、民主的な要求を掲げた闘いの解体策動を行つてゐる。また、「民主的」仮面を被つた韓国軍事独裁政権を政治軍事的に支援し、朝鮮の統一と韓国人民の民主化の闘いに敵対している。また、竹下が連軍縮締会の演説で明確にしているように「国際的役割」をアフガニスタンの「復興援助」また、紛争地域への「復興援助」を行うことによって果たすことを明らかにしている。これは米帝が第二次大戦後、欧州への「復興援助」—マーシャル・プランを行うことによつて、米帝の戦後の一元的支配体制の基礎をつくり、同時に東欧ではじまつた人民民主革命の嵐をとどめようとした。この日帝の「国際的役割」とそれに匹敵するものであり、同時に米帝の戦略をさ

さて、いくことにみすから的位置を置いている。

したがつて、それは中東では米帝の中東支配の要である「イスラエル」を強化することに他ならない。

三、とくに現在、アルジェリアで開かれた「蜂起のサミット」でパレスチナ人民は歴史的な勝利を勝ちとり、米帝のパレスチナ人民とPLOを無視した、蜂起から「イスラエル」を防衛するためのものでしかない「和平工作」を粉碎した後、日帝が米帝に代わって果たそうとしている役割は明確である。とくにアラブ諸国は日本帝国主義の野蛮な支配を受けた経験がなく、歴史的に石油の確保という経済的利害から米帝の中東政策から相対的独自のアラブ寄りの政策をとってきた。このことは日帝がアラブ諸国にどの帝国主義よりも中立的印象を与えてきた。しかし、日帝の「国際的役割」の強調は、経済的利害を第一において外交展開から政治的、すなわち、米帝の世界戦略を支える外交に代わっていることを意味している。実際、日帝はほとんど経済的利益を感じていない「イスラエル」との経済関係を少しずつ強化していっている。「イスラエル」の経済は破綻しており、その生存は米

匿名で話してくれた外務省高官の話では、宇野氏の訪問は、日本の努力の継続にすぎないとことである。両国間取引の拡大は、イスラエル経済の改善のみによるものだと、この高官は言った。「日本は、世界的な経済大国である。だから、もし経済的な基盤が好転すれば、貿易は拡大することになる。(両国間経済関係の拡大は政治的なものではなく、純粹に経済的なものである」とのことである。

アラブの側が、貿易拡大に反対してくるだろうかという質問に対しても「何とも言えない。情況は、大変微妙だし、流動的なので」と、この高官は答えた。

日本の役人は、イスラエルへの経

りか「イスラエルの対日タイアップ」ということから、イスラエルは数少ない対日貿易黒字国のひとつであった。

宇野氏は、（中東訪問）旅行中、アラブの同盟国を無視はしないだろう。彼は、シリア、ヨルダン、エジプトを訪問する予定だし、PLOのリーダー、アラファトにも会いたい意向である。また、被占領地の西岸をも旅行してみたいと言っている。

日本は、宇野氏の訪問計画について、アラブ側に通告を続けた。「どの国も了承した」と私は信じていますつまり、どの国も、この時期に宇野氏がイスラエル訪問するのに、反対しなかつたということです」と松田氏は語った。

が、かつてしばしばみなされてきた
ような刺激的なくらいの親アラブで
はなくなつたことの証としてこの訪
問をうけとめるよう、米国は招かれ
ている。この面でも、日本は、おず
おずと、世界の舞台に登場してこよ
うとしている。

日本の外交政策は、今でも、主要
に円で規定されている。米がかなり
激しく親イスラエルの圧力をかけて
きたのだが、日本はアラブ・ボイコ
ット遵守を続けてきた。日本は輸入
石油に依存しており、その七〇%が
ガルフからなのである。そして、モ
スレムの中東は、日本にとっては良
い市場もある。八七年度、中東は
九二億ドルの日本製品を買い、二〇

米の要請に対し、日本はゆっくりと関係を若干改善してほしいとする応えてきた。アラブ世界とは取引をもたない中小企業の派遣する貿易代表団が数回イスラエル入りした。小さな自動車メーカーが、イスラエル内販売を始めた。外務省はより活発な外交的接触を奨励し、日本でペストセラーとなつた反セミティズムの本がかもし出した騒ぎを鎮めた。最近のその類いの本は、チエルノブイリの核事故は、ユダヤ人の陰謀だとするものだが。

日本と同じような心理条件をもつ他の国においてのごとく、日本外務省は「誠実な仲買い」に熱心であり中東でも同じようにやってみようとしている。日本の役人が本気で説く

中東における日本

一九八八年五月二日号

-17-

-16-



帝の経済軍事援助に依存している。しかし、米帝自身の経済破綻によつて、近年援助が減る傾向にあり、それを補う必要がある。そこで「イスラエル」にとつても日帝の経済力が必要となつてゐる。米帝の中東支配の要である「イスラエル」の強化に日帝が手を貸すことが米帝との関係での「国際的役割」を果たすことが日帝に要求されてゐるのである。

四、我々日本赤軍は、アラブの進歩的諸国が日本帝国主義の位置を自己の戦略に利用することを支持し、日帝が米帝の道に追従しないようにさせることの意義を理解する。同時に我々日本人民と革命主体は日帝の、「国際的役割」として闘い、米帝の世界支配を補完するいかなる役割も許さないことを我々自身の責務とし、中東の人民的、進歩的勢力の闘いに連帶する。

日本赤軍

一九八八年六月一〇日

ラエル」にとつても日帝の経済力が必要となつてゐる。米帝の中東支配の要である「イスラエル」の強化に日帝が手を貸すことが米帝との関係での「国際的役割」を果たすことが日帝に要求されてゐるのである。

四、我々日本赤軍は、アラブの進歩的諸国が日本帝国主義の位置を自己の戦略に利用することを支持し、日帝が米帝の道に追従しないようになることの意義を理解する。同時に我々日本人民と革命主体は日帝の、「国際的役割」として闘い、米帝の世界支配を補完するいかなる役割も許さないことを我々自身の責務とし、中東の人民的、進歩的勢力の闘いに連帶する。

一九八八年六月一〇日 日本赤軍

重 要 日 誌

一九八八年五月一一日

（六月一一日）

五月一一日（水）

・被占領地で、指令一六号が出された。

五月一二日（木）

・シャミル首相、西岸南部のヘブロンを視察。

五月二二日（木）

・本日夜一〇時から、ガザ地区が二四時間閉鎖された。エルサレムに、

三〇〇〇人以上の警官が配備され

た。

・イスラエル軍、ベイルート南方二五キロにあるバルジヤを爆撃（バルジヤ爆撃は、今年二回め）。

五月一三日（金） ラマダーン（断食）

・最後の金曜日

・エルサレムのアルアクサ・モスク構内へ、イスラエル警官が乱入、

パレスチナ人を大弾圧。アラファト議長、この衝突による死傷者は

一三八人と発表。

五月一五日（日）

・指令一六号による「暗黒の炎の日、怒りのための特別な日」。抵

抗の激しい三キャンプ、ナブルス、アナバタ町に外出禁止令出されたが、ガザ、西岸全土で、イスラエル「独立」弾劾の抵抗。

ム・ムサ、辞任。

五月二三日（月）

アマル・対ヒズボラーの戦闘に介入する態勢。

五月二五日（水）

・シリア軍、ベイルート南郊を爆撃。アブ・ジハド暗殺四〇日め。被占領地は、抗議のゼネスト。

五月二七日（金）

・シリア軍、ベイルート南郊へ進攻。アブ・ジハド暗殺四〇日め。被占領地は、抗議のゼネスト。

五月二九日（日）

・イスラエル、西岸、ガザの中学校を再開。

五月一八日（水）

・イスラエル、ヨルダン川から西岸へ侵入しようとしたコマンド部隊逮捕を発表。

五月二一六日（月）

・イスラエル（断食あけの祭）が始まつた。

五月二二日（火）

・イスラエル、ヨルダン川から西岸へ侵入しようとしたコマンド部隊逮捕を発表。

五月二二日（火）

・イラク同盟者として、米国がガルフ戦に登場した」と発表。

五月二二日（火）

・米の国連代表ウォルターズ、イスラエルへ。

五月二二日（火）

・米の国連代表ウォルターズ、シリ

六月三日（金）

・シユルツ国務長官、中東へ。被占領地では、これへの抗議ゼネスト三日間。エジプト、ヨルダン、イスラエル、シリアを訪問する。

六月七日（火）

・アルジェリアで、アラブ緊急サミット開始、九日まで。

六月七日（火）

・西岸ラマッラア「市長」のカリ

六月七日（火） イスラエルのレバノン侵略六周年

・アルジェリアで、アラブ緊急サミット開始、九日まで。

六月五日（日） 六七年の六月戦争

・西岸ラマッラア「市長」、狙

撃され、負傷。